

水俣病補償の最高額

交通事故慰謝料なみ

最高裁民事局長が示唆

衆院公害特別委

黒部のカドミウム禍、東京・柳町の鉛害、水俣病補償の「命の値段」などが契機となつて公害反対世論が急速な高まりをみせているが、これらの問題を究明するため、九日から三日間の予定で衆院産業公害対策特別委が開かれた。議員。

十日には水俣病関係で千種達夫補償処理委座長、宇井純東大助手、黒部カドミウム関係で河合勇晴日本鉱業社長、イタイイタイ病研究の萩野昇医師、小林純岡山大教授、鉛害関係で出光計助日本石油連盟会長、川又克二日本自動車工業会会長らを参考人に招いてさらに具体的な質疑を重ねることになっている。

参考人として出席した矢口最高裁民事局長は「公害裁判は処理が早いほど望ましいので、四大公害裁判に対する裁判所としての人的、物的な手当ては予算面で最優先している」と明らかにし「人の命の換算は？」との島本氏の質問に対して「交通事故判決は最高六千万円、具体的に話し合いのついた最高額は二、三千万円、うち慰謝料としては、四、五百万円が相場のような」と述べ、水俣病補償の最高額が交通事故の慰謝料相当額であることを示唆した。

黒部のカドミウム禍、東京・柳町の鉛害、水俣病補償の「命の値段」などが契機となつて公害反対世論が急速な高まりをみせているが、これらの問題を究明するため、九日から三日間の予定で衆院産業公害対策特別委が開かれた。議員。

十日には水俣病関係で千種達夫補償処理委座長、宇井純東大助手、黒部カドミウム関係で河合勇晴日本鉱業社長、イタイイタイ病研究の萩野昇医師、小林純岡山大教授、鉛害関係で出光計助日本石油連盟会長、川又克二日本自動車工業会会長らを参考人に招いてさらに具体的な質疑を重ねることになっている。

質問の中で特に社会党の島本虎三氏（北海道）は水俣病補償問題